



[寄稿]

「人形劇による学生の学びと成長」

札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科教授 朝地信介

札幌国際大学短期大学部の人形劇は1994年から取り組みが始まり、およそ25年続く学生主体の課外活動です。幼児教育学科(当時)の学生達と指導担当の堀内掬夫先生によって始められた『きくちゃん人形劇』を2010年から私が引き継ぎ、学生が名付けた『人形劇団☆あさっち』となって10年が経ちました。札幌市こども人形劇場こぐま座での公演を中心に、大学近隣の幼稚園・保育園などと協力して人形劇公演を企画し、子ども達に向けて人形劇を実践することで、幼児教育・保育を学ぶ学生達の表現力や保育技能を向上させることを目的に活動しています。

指導担当の立場でありながら、私自身の専門は日本画の制作と美術・図画工作の授業内容研究であるため、人形劇については全くの素人です。さすがに素人のままでは学生に申し訳ないと思い、2013年にはこぐま座での『初心者のための人形劇講座』を受講、『人形劇団オニごっこ』の一員として修了記念公演に参加したこともあります。そのような自分の指導でも途切れることなく活動を継続してこれたのは、子ども達のために何か面白いことがしたい、子ども達と一緒に表現を楽しみたい、という姿勢と意欲を持った学生達がいてくれたからだと思えます。むしろ中途半端に人形劇に詳しい教員ではなかった分、学生主体の活動として中身を任せる形にできて良かったのかもしれない。

この10年間は学生達の頑張りのもあり、公演依頼をいただくことも増えて活動の場も徐々に広がりました。当初はこぐま座公演と幼稚園への訪問公演を1か所というのが主な活動でしたが、最近では幼稚園、保育園、福祉施設、小学校、区民センターなど、年間で約10か所、10～14公演を行っています。中でも絵本『おばけのマール』に関連した企画として2015年に札幌時計台で開催された『おばけのマール誕生10周年感謝のつどい新作発表会』と、2016年に北海道立三好太郎美術館で開催された『マール記念日2016』での公演は、学生達にとって貴重な経験になっただけでなく、人形劇との関わりによって得られた人と人の繋がりが形になった機会でした。また2016年度からは浦河町と本学の地域連携事業公開講座として、浦河町内の幼稚園・保育園を訪問する形で人形劇公演を行っています。現在も継続されているこの事業はこれまでの学生の活動の積み重ねが新しい形に繋がったものであり、今後も発展が楽しみです。

学生の活動に携わって感じる人形劇の良いところは、表現者(学生)と鑑賞者(子ども)がお互いに表現(人形劇)を楽しめることです。幼児教育・保育を学ぶ学生にとって、子どもの前に立つことは少なからず実習のイメージに繋がりが、先生としてやらなければならないことや、先生と子どもという関係性を意識してしまうのは致し方ない部分でもあります。

しかし人形劇という表現を通すことによって、先生と子どもではなく人と人がお互いに関わり合い、お互いに楽しむことの大切さを学生達にあらためて認識させてくれると感じます。公演後の学生と子どもとの交流の場面で、お互いが「楽しかった」と「ありがとう」を言い合えるのです。人形劇は子どもとの関わり方の楽しさと共に、学生自身が表現することの楽しさと嬉しさを感じられる機会になっていると感じます。

またこれまでの活動から、人形劇の準備や稽古、公演を通して学生の成長につながる様々な要素を見ることができています。劇団をチームとして協力し助け合うことの面白さと難しさ、メンバーでやり取りを重ねて作品が出来上がっていく過程の大切さ、上手くいかない時に臨機応変に考えて動く対応力、子ども(鑑賞者)に向けて直接表現するライブ感と反応を感じられる感覚、子どもが楽しめる内容や伝え方などを考える創意工夫、公演後の子どもとの交流の機会を得られる喜びなど。これらは幼児教育・保育の学生にとって大切なだけでなく、表現者としてだけでなく、一人の人の成長にとって大切な要素とすることができ、私自身が『初心者のための人形劇講座』に参加した際にあらためて実感し、学生に伝えていきたいと考えたことと重なるものです。

コロナ禍の現在、大学では遠隔授業の期間が繰り返されたことや学内での課外活動の制限の影響、公演先としてお世話になっていた幼稚園・保育園の公演受け入れが難しい状況など様々な要因が重なり、人形劇団☆あさっちの活動は昨年からはほぼ停止した状態となっているのは指導担当としても本当に残念です。すぐに元通りにははならなくても、学生の成長にとって素晴らしい機会であり、人が生きるために必要な表現・芸術・文化である人形劇をなんとか継続できるように、学生が何らかの形で人形劇に対しての接点を持てるように、工夫していきたいと考えています。

朝地 信介

略歴



札幌国際大学短期大学部幼児教育
保育学科教授。

専門は教科教育学(美術工芸・図画工作)、
芸術実践論(日本画)。主に『子どもの図
画工作』『保育内容(表現)』などの造形
表現科目を担当し、2010年から人形劇団

☆あさっちの顧問・指導担当を務める。また日本画家として札幌を
拠点に活動。個展7回、企画展、グループ展など多数。



「私に創る喜びを育んだ中島児童会館3」～児童劇団「こすり」の「うぬぼれ兎」～鈴木 喜三夫



戦後久しぶりに誕生した札幌の児童劇団「こすり」(1957年創立)の第2回公演の演出を私がやったのは翌58年11月である。この写真はその時の『うぬぼれ兎』(ソ連のミハルコフ作)の舞台だ。53年春、札幌北高校を卒業して東京の玉川学園大学教育学科に入学した私は、芝居の道ではなく教師を選択。

さっそく学校劇で有名な岡田陽先生(中学部)率いる演劇部に入り、舞台監督など裏方で活動を始める。玉川の芝居は子どもの役は幼稚園や小学部、青年は中学・高等部、おとなは大学の学生が演ずるのでとても自然だ。しかもそれをまとめる岡田先生の演出術が見事で、私には集団のさびき、個の生かし方が強く印象に残った。そのほかオペラ『赤いローソクと人魚』(小川未明作)、オペレッタ『森の音楽会』などの脚本を書いたり、玉川塾の詩劇やオペラを創ったり文集を発行したりして飛び回っていた。

しかし「演劇」の道がどうしてもあきらめきれず4年生の夏、大学を飛び出す。だが大都会で生活しながら芝居を学ぶことは難しい。食べることに疲れ十分に演劇の勉強も出来ず、58年春、ふらっと帰省することになる。

「こすり」は「札幌子供会」10周年(57年)で私の書いた『行こう プレーメンへ』の芝居をやり、その魅力にはまった「札幌子供会」や「青い鳥グループ」にいた岩花達夫らが結集した劇団である。傷心の私は彼らの温かい大歓迎を受けた。やはり故郷はいいものだ。

さっそく演出を頼まれた。同じ世代の者たちの劇団なので年上の指導者を望んでいたのだろう。その辺の記憶は曖昧だが私は喜んですぐ承諾したと思う。こんな訳で何年ぶりの演出が始まった。もちろん会場は中島児童会館ホール。こうして私と「中島児童会館」のお付き合いは5年ぶりにまた再開したのである。

久しぶりの演出の仕事が今までになく楽しかったのを覚えている。気心の知れた仲間たちとの共同作業が身に染みだ。このような体験は東京では得られない。やがて30歳になろうとしている私にとって、この後どう生きようとするのか—どの場所で生活していくのか—が問われていたのだろう。そんな思いが胸の内にあった。

1958年11月14日から16日まで『うぬぼれ兎』の芝居は、中島児童会館ホールいっぱいの親子の観客で埋まり、大成功のうちに幕をおろす。

suzuki kimio
鈴木 喜三夫

PROFILE



一九三一年・札幌生まれ。札幌北高から東京・玉川学園大学へ入学。五六年中退してテレビ作家で活動後、札幌へ帰り五九年専門劇団「さっぽろ」創設。八六年フリー演出家、二〇〇九年「座・れら」を結成、現在に至る。九四年北海道文化奨励賞、〇七年北海道文化賞受賞。〇四年「北海道演劇1945-2000」(北海道新聞社)上梓。

MA・SO・BO

本 シェルジュ

KONNO MICHIRO

今野 道裕 先生

國學院大學北海道短期大学部
幼児・児童教育学科
幼児保育コース 教授



PROFILE

1955年生まれ
高校時代より人形劇活動を始める
小学校教員28年を経て2006年～市立名寄短期大学教授2021年～國學院大學北海道短期大学部教授
北海道人形劇協会理事
芸術と遊び創造協会会員
日本福祉文化学会会員
北海道教育学会会員
北海道芸術教育の会
ひとり人形劇団「オホーツク風雲ワクワク団n」として活動中
著作:『作ってあそべる製作ずかん～3・4・5歳児の保育に～』(学研・2013年12月)

本の紹介⑧ 『日本伝承遊び事典』

(東京おもちゃ美術館 編 黎明書房)

図鑑マニアかもしれません。虫や動物、恐竜、植物、石やクモに至るまで図鑑や事典を眺め、読むのが好きでした。集まっていることにまず意義があります。小学校教員のころ、夏休みの自由研究のヒントとして「瓶の蓋でもたくさん集めたら立派なコレクション・研究になる」と言っていました。また「分けることはわかること」だと思います。図鑑や事典を見ていると、分ける視点の鋭さにも気づかされます。

地域においても学校内でさえも異年齢集団の遊びが希薄になっている現代において、「伝承あそびを集める」ことの意義はとりわけ大きいと思います。「流行」はもっぱら横の連動であり、「伝承」とは世代を超えて繋がること。だから子どもだけでなく、高齢者にも、そこを繋いでがんばっている人たちにも、この事典を活用してほしい。読んでほしい。きっと古くて新しいヒントが隠れているはず。私もコラムを一つ書かせていただいています。



日本の昔遊びにコマまわしがあります。私は、小学生2年生の頃、コマの回し方を覚えました。一昔前、ベイブレードなるコマが流行ったときに息子が勝負を挑んで来たため、昔ながらの紐を巻くコマで対抗しました。結果は、昔のコマの勝ち!父の威厳を守ると共に、新しいベイブレードを欲しいと言わなくなりました。昔あそびも悪くないと感じた瞬間でした。みなさんも、昔に覚えた遊びを子どもに教えてあげると新しい発見があるかもしれませんね。(川村)

大人向け

こどものまなび塾 2021年度
「ボランティア養成講習会」

こどものまなび塾第4期では、國學院大學北海道短期大学部幼児・児童教育学科 幼児保育コース教授の今野道裕先生を講師としてお招きし、受講者の皆様と一緒に「あそびのお店」を計画し中島児童会館で「あそびのお店」を開店します。

★★第4期「あそびのお店を開店しよう」★★

==日程==

- 11月4日(木)「あそびのお店」をはじめるために
- 5日(金)「あそびのお店」を計画しよう!
- 6日(土)「あそびのお店」を準備しよう!
- 7日(日)「あそびのお店」開店

==時間==

- 木曜日・金曜日: 昼コース 10～12時
- 夜コース 19～21時
- 土曜日: 昼夜共通 10～12時
- 日曜日: 昼夜共通 10～15時30分

参加受講者
申込受付中

※参加受講料 11/4～7 第4期分 3,000円

こどものまなび塾 特別企画

「あそびのお店」開店!

ボランティア養成講座「こどものまなび塾」の受講生が「あそびのお店」を開店します。ゲーム、工作、読み聞かせなど、大人も子どもも楽しくあそんじゃおう!「楽しい」がいっぱいのお店にどうぞお越しください。

日程: 11/7(土) ①10:30～12:00 ②13:00～15:30

※①②どちらも参加無料です。

【お問い合わせ・申し込み】

札幌市中島児童会館 TEL 011-511-3397

札幌市子ども人形劇場こぐま座 TEL 011-512-6886

住所: 札幌市中央区中島公園 1-1

(地下鉄南北線中島公園駅下車3番出口より徒歩1分)